

墨書土器 148 点が出土

文字 163 個 漆紙文書も

鶴ヶ島の一天狗遺跡

鶴ヶ島市脚折町にある奈良、平安時代の^{いつてんぐ}一天狗遺跡から、墨で文字が書かれた土器百四十八点が出土したことが、同市教育委員会の調査で明らかになった。土器に書かれた文字は百六十三個にのぼり、これほど多くの墨書土器が発見されるのは珍しいという。このほか、漆が塗られた文書や、墨を作るときの水差しである「水滴」も見つかり、専門家は「古代の郡役所が近くにあったことを裏付ける証拠」と話している。

一天狗遺跡は、同市と坂戸市境の関越自動車道のほとりにあり、面積は約十二・五^{ヘクタール}。七二五年から八五〇年にかけての遺跡とみられ、一九七八年から九四年にかけて鶴ヶ島市教委が中心になって発掘調査をしてきた。

これまでの調査で見つかったのは、百九棟の住居跡や十二の井戸跡、「^{つき}坏」や「^{わん}椀」などの土器が百四十八点。土器からは計百六十三個の文字が見つかり、「又」の字が百三個と最も多かった。

文字の意味について、同市教委は「現在の屋号のように、特定の集団を示す文字と考えられる」と説明する。ほかに見つかったのは「前原」「福」「嘉」「富」「人」「丸」「伴」などで、同じ文字が記された墨書土器が多数出土したのが特徴だ
という

また、水滴をはじめ硯、県内最古の紙に書かれた漆紙文書、官人などが使用する帯金具なども発見された。

「古代郡役所あった証拠」専門家

漆紙文書や帯金具は、一般の農村からはあまり出土しないため、古代史に詳しいさいたま文学館の宮瀧交二学芸員は「一天狗遺跡の近くにある若葉台遺跡も含め、七一六年に武蔵国入間郡を分割して成立した高麗郡の役所に関係がある可能性が高い」と指摘している。

県内では本庄市の古井戸・将監塚遺跡で二百三点の墨書土器が見つかっている。一天狗遺跡の調査面積は、遺跡全体の約一四％にとどまっており、今後さらに土器などが発見される可能性があるという。

(朝日新聞 1999.2.23 朝刊 31面東埼玉 13版 一部加工しました)